



リバース・カルチャーショック

カルチャーショックという言葉は、聞いたことがあると思います。違う国に行って、違った言葉、習慣、常識に触れて受ける文化的衝撃のことです。

私は、今回で3回目の日本滞在なので、カルチャーショックはそんなにひどくありませんでしたが、日本語が通じないときは悔しくて、それで落ち込むことが多かったです。

カルチャーショックも大変ですが、私にとって本当に怖いのは、ドイツに帰ってからの「リバース・カルチャーショック」です。リバース・カルチャーショックとは、他の国の生活環

境に慣れすぎて、自分の国に帰ったときに抵抗感が生まれて、辛い気持ちになってしまうことです。

例えば、日本の治安がいいことに慣れすぎてしまった私は、ドイツに帰ったときにバス停に座っていて、無意識に携帯電話を太ももの上に置きました。すると、突然、男性が近づいてきて私の携帯電話を奪って逃げようとしてきました。でも、すぐに返してくれました。「そんなところに置いたら、盗まれるよ!」と笑顔で注意してくれたのです。

以前の私なら、ドイツで携帯電話を無防備に置いたら盗まれ

てしまうと当たり前に分かっていたはずなのに、日本の生活の中で忘れてしまっていたことがショックでした。

今回は2年間日本に暮らして、日本の日常生活や働き方にだいぶ慣れたので、ドイツに帰ったら自分の働き方などを見直さなければなりません。ドイツの職場の人は、私の戸惑いを理解してくれないかもしれないと思うと不安です。スムーズに適應できますように!



ドイツに帰ったら寂しいこと

一番寂しいことは、日本語を使うチャンスが少なくなることです。私は日本語が大好きですが、ドイツには日本人があまりいません。

日本語の発音と丁寧さが好きです。日本人にとって当たり前の「いただきます」や「お帰りのさい」という挨拶は、とても素敵だと思います! ドイツでは、家に帰ったときの決まった挨拶はありません。

あと、オノマトペが気に入っています。「ゴロゴロ」「ジャブジャブ」「プニプニ」とか、本当に面白いです。繰り返す音がかわいいし、その音から感触な

どが想像できますね。私はドイツにいる家族に「プニプニ」を教えてあげました。今は、家族みんなが当たり前に使っています。

栃木弁も恋しくなると思えます。下野市に来たばかりの頃、仕事や生活に色々な不安がありましたが「ダイジ!」という言葉に何度も救われました。

日本の食べ物が食べられなくなることも寂しいです。もちろん、旅館で出るような和食も素晴らしいですが、他の国では見たことがないオムライスやラーメン、餃子も大好きです。そして、何よりお米が美味しいで

す! 私は、白いご飯と漬物があれば他のものはいりません。

今年になって念願のシモツカレを食べました。匂いはちょっと特別ですが、美味しかったです!

日本の食事は、多彩です。しょうゆの味、みその味、塩の味、甘いもの、酸っぱいもの、辛いものまであって、私はすぐに懐かしくなると思えます。



私がお気に入りの言葉“笑顔”

下野市では、豊かな自然を満喫できました。特に、市役所からはきれいな山を眺めることができ、とても幸せな気持ちになって、大好きになりました。何枚も写真を撮りました。

田んぼの向こうに、山が見えるなんて! 皆さんはとても素敵な場所に住んでいるということを忘れないでくださいね! 私は本当に羨

ましいです。

下野市は、私に、今まで知らなかった日本を見せてくれました。皆さんのおかげで、最高の時間を過ごすことができました。本当に楽しかったです!

本当に寂しいですが、たくさんの思い出を胸に、笑顔でドイツに帰ります! また、どこかで会いましょう!